

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	運動学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部1年	学期及び曜時限	後期	教室名	903教室・機能訓練室
担 当 教 員	横山 想				
実務経験とその関連資格	理学療法士として一般病院に勤務し、急性期整形外科疾患を中心に、回復期、生活期(外来、訪問リハビリ)を8年経験。 臨床に必要な知識と技術を補うため、整形や中枢神経疾患を中心に理学療法士会や外部・院内勉強会に参加。 生活期患者の生活習慣指導の一環として栄養資格取得。				
《授業科目における学習内容》					
目標①:運動器の障害を理解するために必要な、人体の関節運動を理解できる。 目標②:各関節の正常運動について、骨・関節・靭帯・筋・神経の働きを含めたメカニズムを説明できる。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト評価35%:大きな単元終了ごとに小テストを実施。その点数の50%を定期試験に加算する(7単元10点満点=35点分) 定期試験評価65%:すべての範囲の試験を実施。65点満点とする。 最終評価:上記2つの点数の合計が60点以上を合格とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
Donald A. Neumann 原著, カラー版筋骨格系のキネシオロジー原著第3 版, 医歯薬出版, 2013 年 中村隆一他, 基礎運動学第6 版, 医歯薬出版(株), 2003 年					
《授業外における学習方法》					
その単元の内容の解剖分野を復習しておくこと。 前回の授業内容を事前に確認した上で、授業に臨むこと。					
《履修に当たっての留意点》					
授業への積極的な参加。教科書を読んで理解しようとする姿勢。グループワークと講義の切り替え。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	運動学の概要が理解できる。	PC・PP 骨模型・テープ	復習:関節包内運動	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、運動学の基礎、関節包内運動			
第2回	授業を通じての到達目標	肩関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:肩関節の骨・関節・靭帯の名称	
	各コマにおける授業予定	肩関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則			
第3回	授業を通じての到達目標	肩関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:肩関節の骨・関節・靭帯の名称の暗記	
	各コマにおける授業予定	肩関節2:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則			
第4回	授業を通じての到達目標	肩甲上腕リズムについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習:肩甲上腕リズム	
	各コマにおける授業予定	肩関節3:肩甲上腕リズム			
第5回	授業を通じての到達目標	肩関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:肩関節の筋	
	各コマにおける授業予定	肩関節4:筋と関節の相互作用			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	肘関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	予習:肘関節の骨・関節・靭帯の名称
	各コマにおける授業予定	肘関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 肩関節小テスト		
第7回	授業を通じての到達目標	肘関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	復習:関節包内運動、凹凸の法則
	各コマにおける授業予定	肘関節2:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則		
第8回	授業を通じての到達目標	肘関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	予習:肘関節の筋
	各コマにおける授業予定	肘関節3:筋と関節の相互作用		
第9回	授業を通じての到達目標	手関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	予習:手関節の骨・関節・靭帯の名称
	各コマにおける授業予定	手関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 肘関節小テスト		
第10回	授業を通じての到達目標	手のアーチ等について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	復習:手のアーチ、手根管、テノデューシスアクション
	各コマにおける授業予定	手関節2:手のアーチ、手根管、テノデューシスアクション		
第11回	授業を通じての到達目標	手の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	予習:手関節の筋
	各コマにおける授業予定	手関節3:筋と関節の相互作用		
第12回	授業を通じての到達目標	上肢筋についての口頭試問	配布資料	予習:筋の起始停止・支配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 上肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第13回	授業を通じての到達目標	上肢筋についての口頭試問	配布資料	予習:筋の起始停止・支配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 上肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第14回	授業を通じての到達目標	股関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	予習:股関節の骨・関節・靭帯の名称
	各コマにおける授業予定	股関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 手関節小テスト		
第15回	授業を通じての到達目標	股関節のアライメントについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テーブ	復習:股関節のアライメント
	各コマにおける授業予定	股関節2:股関節のアライメント		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	運動学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対象学年	昼間部1年		学期及び曜時間	後期	教室名	903教室・機能訓練室
担当教員	横山 想	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>目標①:運動器の障害を理解するために必要な、人体の関節運動を理解できる。 目標②:各関節の正常運動について、骨・関節・靭帯・筋・神経の働きを含めたメカニズムを説明できる。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト評価35%:大きな単元終了ごとに小テストを実施。その点数の50%を定期試験に加算する(7単元10点満点=35点分) 定期試験評価65%:すべての範囲の試験を実施。65点満点とする。 最終評価:上記2つの点数の合計が60点以上を合格とする。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>Donald A. Neumann 原著, カラー版筋骨格系のキネシオロジー原著第3 版, 医歯薬出版, 2013 年 中村隆一他, 基礎運動学第6 版, 医歯薬出版(株), 2003 年</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>その単元の内容の解剖分野を復習しておくこと。 前回の授業内容を事前に確認した上で、授業に臨むこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業への積極的な参加。教科書を読んで理解しようとする姿勢。グループワークと講義の切り替え。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	股関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる		PC・PP 骨模型・テープ	予習:股関節の筋	
	各コマに おける 授業予定	股関節3:筋と関節の相互作用				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	膝関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる		PC・PP 骨模型・テープ	予習:膝関節の骨・関節・靭帯の名称	
	各コマに おける 授業予定	膝関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 股関節小テスト				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	膝関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる		PC・PP 骨模型・テープ	予習:膝関節の骨・関節・靭帯の名称の暗記	
	各コマに おける 授業予定	膝関節2:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	スクリーホームムーブメントについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる		PC・PP 骨模型・テープ	復習:スクリーホームムーブメント	
	各コマに おける 授業予定	膝関節3:スクリーホームムーブメント				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	膝関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる		PC・PP 骨模型・テープ	予習:膝関節の筋	
	各コマに おける 授業予定	膝関節4:筋と関節の相互作用				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標	足関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:足関節の骨・関節・靭帯の名称
	各コマにおける授業予定	足関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 膝関節小テスト		
第22回	授業を通じての到達目標	足関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:足関節の骨・関節・靭帯の名称の暗記
	各コマにおける授業予定	足関節2:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則		
第23回	授業を通じての到達目標	足部のアーチについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習:足部のアーチ
	各コマにおける授業予定	足関節3:足部のアーチ		
第24回	授業を通じての到達目標	足関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:足関節の筋
	各コマにおける授業予定	足関節4:筋と関節の相互作用		
第25回	授業を通じての到達目標	下肢筋についての口頭試問	配布資料	予習:筋の起始停止・支配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 下肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第26回	授業を通じての到達目標	下肢筋についての口頭試問	配布資料	予習:筋の起始停止・支配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 下肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第27回	授業を通じての到達目標	脊柱について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:脊柱の骨・関節・靭帯の名称
	各コマにおける授業予定	脊柱1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 足関節小テスト		
第28回	授業を通じての到達目標	脊柱について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:脊柱の骨・関節・靭帯の名称の暗記
	各コマにおける授業予定	脊柱2:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則		
第29回	授業を通じての到達目標	脊柱の動きについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習:椎間関節の動き
	各コマにおける授業予定	脊柱3:脊柱の運動学		
第30回	授業を通じての到達目標	脊柱の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:脊柱の筋
	各コマにおける授業予定	脊柱4:筋と関節の相互作用		